

発刊にあたって

ここに、地域総合研究第16号発刊の運びとなった。本号は第1部研究報告、第2部申請書、第3部報告書、第4部講演・報告会録そして第5部アニュアルレポートという5部構成で、第1部から第4部までをPart1とし、第5部をPart2の別冊とした。“地域立大学”を自認する松本大学の地域貢献活動全般の報告という本誌の位置付けが上記の5部構成に表れている。Part1は読みやすさを優先して、本号から2段組とした。

本センターの研究員は本学の全教員によって構成されている。本学には研究誌として「松本大学研究紀要」と本誌「地域総合研究」の2誌があり、査読付き論文誌として統一的な規定に基づいて出版しているが、本センター研究員である教員の研究成果のうち、特に「地域に関する研究」ならびに「教育改善・実践に関する研究」に限ったものが、本誌第1部の研究報告である。大学発行の研究史として「松本大学研究紀要」との統一的な執筆規定や形式査読の運用はまだ始まったばかりで、執筆者、編集担当、査読者それぞれが応力を感じながら安定点を探している状態である。本学らしい適切な論文スタイルの確立を目指して、今後も研究誌規定や執筆要項の改善を図っていきたい。

第2部以降の内容は、従来の意味では研究紀要に掲載するような“研究成果”ではない。しかしこれらも、近年大学に求められている社会貢献や大学の改善を目的として、本学教員が時間をかけて取組んだ成果である。“研究業績”としてはふさわしくなくても、第2部から第5部に掲載されているような活動を本学教員が時間をかけて行っているということは、地域密着型の地方私立大学として誇れる実績である。この意味で、研究論文とは部を分けて、本誌でこのような活動を活字に記録・出版していくことは、今後の本学の発展のために重要なことだと考える。

平成27年7月

地域総合研究センター長
室 谷 心